

佛立開導日扇聖人物語 第17回

「開導聖人の劇」が上演



200th Anniversary
佛立開導日扇聖人のご生誕200年慶典

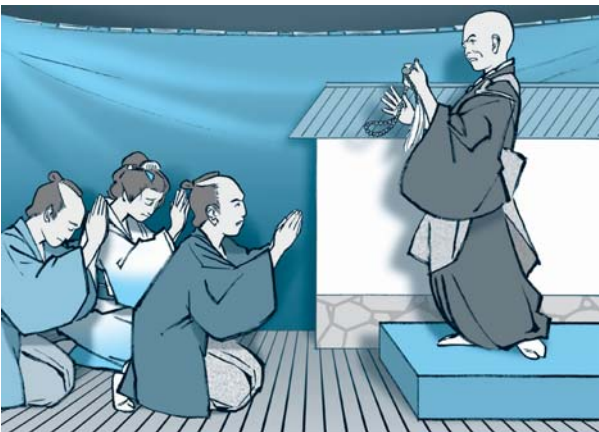
開導聖人は高祖六百回御遠諱（平成二十八年三月号を参考にしてね）の後は、佛立講の改良（よくすること）と、ご信者方の育成（育ててりっぱにすること）に力を注がれたんだ。今回は「佛立講内の改良と整備」、そして「開導聖人の劇」についてお話しするね。

さらなる講内の改良

開導聖人は明治十五年（一八八二）の秋頃から、つぎつぎと新たに規則（決まり）を作られ佛立講内に発表されたんだ。

佛立講代講師定則

ご信者が増え続け開導聖人お一人でご教導（教えみちびくこと）されるのは大変になってきたんだ。そこで開導聖人に代わってご信者方を指導する「代講師」という制度を以前（明治十二年）に作られたんだ。その「代講師」の条件をしっかりと定められたのがこの「佛立講代講師定則」なんだ。「代講師」になるには僧侶（お坊さん）でなくてもよかつたんだけど、とても厳しい学力検査があり免許状をもらわなければいけなかつたんだ。代講師は「長松門人」と呼ばれ二十五名いたんだよ。



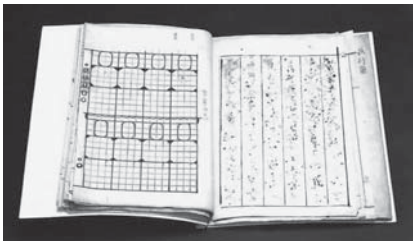
明治16年2月 京都千本の阪井座で「三国無類旭五字」と題された開導聖人の一代記が上演された

本門佛立講申合規則

これはご信者方の心得（心がまえ、心がけ）をあらわしたものだ。例えば「お祖師さま（日蓮聖人）や門相聖人のみ教えを守ること。そして世の中の法（法律）に違反しないこと」「御講を勤めてもご近所の迷惑にならないように」「病人がある場合は親切にお助行をすること。その時、お金を受け取ったり、医薬を止めさせてはいけない」「ご信者の間でお金の貸し借りをしてはいけない」など。

こうして「お弟子のご奉公制度」や「ご信者の行儀」を決められて、ますますの佛立講の発展を願われたんだね。

明治十六年（一八八三）二月、京都千本にある阪井座で、開導聖人の「青年時代から宥清寺に入られるまで」のお話が、お芝居となつて上演（舞台で演じ、人々に見せること）されたんだ。



この上に紙を置き、御指南などを書かれた

このお芝居はご信者であつた吉田栄次郎という劇作家（劇の台本を書く人）が、浄瑠璃（物語を三味線の音に合わせて節をつけて語る劇場音楽）の竹本滝太夫という人と共同で作つたお芝居なんだ。

佛立講の御題目のご信心が弘まり、開導聖人のことを知らない人がいないぐらいとても有名であつたので、このお芝居の人氣は上々（とてもよい）だつたんだよ。

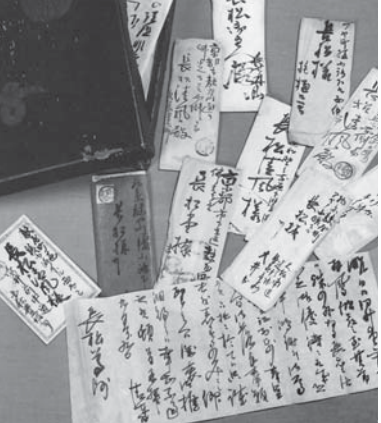
開導聖人はご信者方からこのお芝居の見物（なんども勧められたんだけど）、《高祖六百回御遠諱》の大法要の後は、お酒や芝居をやめておられたので見物には行かれなかつたんだ。

でも、毎日をご弘通ご奉公の中で過ごされてきた開導聖人にとっては、このお芝居の上演は、ほんの一時の心休まる出来事だつただろうね。



【画像は尾上松之助さん】

開導聖人の役を演じたのは尾上松之丞という役者さんで、この人は日本で映画が始まつた頃のスター尾上松之助さんのお師匠さんにあたるというから、きつとイケメンの役者さんだつたんだろうね。（笑）



開導聖人のもとに寄せられた数々のお手紙